

日本情報科教育学会第10回全国大会を振り返って

第10回全国大会実行委員長
大阪芸術大学アートサイエンス学科教授 武村 泰宏

1. はじめに

日本情報科教育学会第10回全国大会を、「情報科教育の今までとこれから」～次期学習指導要領改訂を契機に～のテーマのもとで、大阪府南河内郡河南町の大阪芸術大学を会場として、7月1日（土）・2日（日）の2日間にわたり開催させていただきました。

情報科は、平成11年の高等学校学習指導要領改訂によって新設されて以来、現行学習指導要領への改訂を経て、高等学校における情報活用能力育成の中核となってきました。しかしながら、課題

や諸問題も具体化され、科学的な理解に関する指導力の育成や教材研究、情報科教員の配置や採用、情報科教員の育成や養成等の課題が指摘されています。

本全国大会では、このような現

行の学習指導要領における情報科教育の課題や諸問題を取り上げ、2022年から高等学校で実施される共通必修科目「情報Ⅰ」、選択科目「情報Ⅱ」において情報の科学的な理解に裏打ちされた情報活用能力の育成、新しい学びの方法、評価方法等について検討・討論し、課題解決に向けて発信していくことを目指しました。また第9回全国大会テーマの「情報科教育に求められる教育と情報科が目指すべき教育」との接続性も考慮し、本学会がリーダーシップをとり、この10年の歩みを踏まえて次の10年を考える「情報科教育の今までとこれから」といったテーマのもとで、第10回全国大会の開催を進めました。

2. 第10回全国大会の概要

第10回全国大会では、これまでの全国大会に引き続き、次期学習指導要領にあわせて、情報科教育に携わる多くの教育実践者、教育研究者の参加・発表を募り、情報共有の場を形成することを目的とさせていただきました。また、本全国大会テーマの「情報科教育の今までとこれから」に沿って、情報科で育成する力の共通認識の形成について、参加者に情報提供を行うとともに、学会設



写真1 第10回全国大会講演論文集



写真2 大阪芸術大学のキャンパス



写真3 大会1日目の受付の様子

立10周年ということ意識しながら、会員間の意見交換が図れる大会運営を心掛けました。

近畿北陸地区での全国大会開催は2回目であり、文部科学省、経済産業省、総務省、大阪府教育委員会、河南町教育委員会からのご後援、関係学会・研究会・協会など12団体からのご協賛に加え、企業・研究会からの展示・広告をいただきました。

本全国大会2日間の参加者は214名で、正会員の大学・大学院関係者が74名、正会員の高等学校等関係者が45名、学生会員が16名、協賛会員が9名、非会員の方が70名でした。また、プログラムへのご参加は、招待講演3件、基調講演1件、パネルディスカッション1件、口頭発表70件、ポスター発表6件、デモンストレーション発表6件のご登壇をいただきました。

本全国大会では、芸術系大学が会場となったことで、参加者からのご希望などもあり、その特性を生かしたイベント等が催されました。例えば、芸術系大学ならではの施設設備の見学ツアー（撮影所、ガラス／金属／陶芸の工房、映画館、劇場など）、アートサイエンス学科による未来デザインの体験展示（プロジェクションマッピング、エ

アーフローティングメディア、インタラクティブアート）、懇親会での卒業生による生演奏、芸大生による講演論文集の表紙デザイン制作（写真1）がありました。

3. 基調講演・招待講演・パネルディスカッション

招待講演Ⅰでは、安彦広斉氏（文部科学省 生涯学習政策局 情報教育課 情報教育振興室長）から「高大接続改革の動向について」のテーマで、「高大接続改革」の理念と経緯、高等学校教育の改革、大学教育の改革、大学入学者選抜の改革に関するご講演をいただきました。招待講演Ⅱでは、鹿野利春氏（国立教育政策研究所 教育課程研究センター 研究開発部 教育課程調査官）から、「教科「情報」の現在と将来」のテーマで、情報科の今後の在り方、情報活用能力について、小・中・高を通じた情報教育、情報科における「見方・考え方」、情報科における学習プロセス、情報科において育む資質・能力、情報Ⅰ・情報Ⅱ、小中学校の新学習指導要領に関するご講演をいただきました。招待講演Ⅲでは、山本 淳氏（パナソニック(株)コネクティッドソリューションズ



写真4 招待講演Ⅰの様子



写真5 招待講演Ⅱの様子



写真6 講演会場の全景



写真7 基調講演の様子

社)から、「プロジェクションマッピング技術動向」といったテーマで、リオ五輪のスタジアムフィールドマッピング事例を基にしたご講演をいただきました。基調講演では、本学会の岡本敏雄会長から「高校教科“情報”の国家戦略とその充実」のテーマでご講演いただきました。パネルディスカッションは、「次の10年を見据えた情報科教育」のテーマのもと、コーディネーターに西野和典氏(九州工業大学)、パネリストに阿濱茂樹氏(山口大学)、佐藤万寿美氏(伊丹市立伊丹高等学校)で、10年を振り返りつつ、次の10年間に情報科が目指すべき教育について、それぞれの立場で意見を述べていただきました。

4. 研究発表

口頭発表は、発表10分、質疑4分、入れ替え1分として、1件15分の研究発表を行っていただきました。第1日目は2スロットの8パラレルセッション(カリキュラム・教材、プログラミング教育、教員養成、情報科の考察・評価、教育の情報化)で実施しました。第2日目には1スロットの4パラレルセッション(カリキュラム・教材、プログラミング教育、教育の情報化、共通教科「情

報)を実施しました。各セッションにおきましては、真摯で熱心なディスカッションを展開いただきました。

第2日目午後には、ポスターセッションおよびデモンストレーションセッションが開催され、活発な意見交換を行っていただきました。前者は、第7～9回全国大会と同様の形式で実施し、ポスター展示とコアタイムにおけるポスター前での研究発表を行っていただきました。後者も、今までの全国大会での発表形式を継承し、「情報科のための教材・教具、授業支援ツール等」に関する研究発表を行っていただきました。

5. おわりに

本全国大会の招待講演、基調講演、研究発表を通して、2022年から実施される共通必修科目「情報Ⅰ」、選択科目「情報Ⅱ」における情報活用能力の育成、新しい学びの方法、評価方法に関する議論を促進させる機会になれば幸いです。また、この10年の歩みを踏まえて、会員の方々が積極的に次の10年の情報科教育を考え、それが高度で充実した情報教育に繋がっていくことを願っております。



写真8 パネルディスカッションの様子



写真9 口頭発表の様子

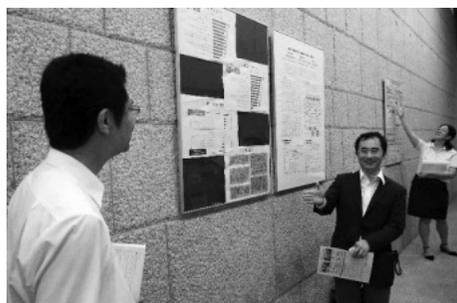


写真10 ポスター発表の様子



写真11 デモンストレーション発表の様子